

第628回:延安水滸伝

中国情報収集と称しネットサーフィンをしていたら、「延安水滸伝」なる奇書を発見、思わず買ってしまった。1941年発行の本書(Kindle版)の書名は「延安水滸伝:毛沢東と中共幹部銘々伝」。著者の波多野乾一氏(1890~63年)は、「中国本土で活躍した大阪朝日新聞、時事新報社の北京特派員」と同氏の経歴にある。

ネットの本書紹介欄には「日中戦争当時、延安にひきこもっていた中国共産党の幹部を水滸伝の頭領になぞらえて紹介!(中略)、毛澤東に赤旋風という綽名を付けてもよささうである(原文ママ)」とある。

一覧表は次頁のとおり(革命時、複数の名を使っていた人物は現行名に変更)。108将の内、初版掲載は69将のみで一寸ガッカリ。第3版には108将全てが載っており、中国のHPから既にリストは入手しているのだが真偽の確認がとれないことから初版を使うこととした。第3版には鄧小平や習仲勲(習主席の実父)等も載っているが、初版から数年後の状況を加味して書いた「後講釈」の匂いが強く、あまり感心しない。

以下は波多野氏が41年当時中共指導者と認識していた人たちに対するボクの感想文のようなものです。

- 人物の大半が「長征」経験者(◎)で、新中国は紅軍が建国したことが、これで一目瞭然。55年発令の「開国将軍(元帥・大将・上将・その他)」は色分けで示した。軍人はこの程度かと思われるかもしれないが、任命されなかった人物の中には、将軍を任命する立場の別格官幣社(①毛沢東、③周恩来)や、軍の政治・主計部門の大物(③①劉少奇、③②楊尚昆)などが控えており、加えて55年以前に亡くなった人物(①⑦葉挺、④⑦鄧発)などをカウントすれば9割以上が中国語で云う「軍事家」で、ごく一部が①①徐特立、①②林伯渠、53謝覺哉などの文化人である。
- 丁度100年前の1921年7月、中国共産党の創立会議が秘密裏に上海で開催され、上海の高級住宅に13人の中国人青年が集まった。いま上海の中心として殷賑を極める新天地の隣に保存されている「中共一大会址」が秘密会議の跡地だ。それから20年後、つまり本書が書かれた41年には設立発起人となった13人の中で、早くも11人が姿を消し①毛沢東と②⑥董必武の2人しか残っていない。敵に殺害された人物も多いが、ここに不寛容というか、生存競争の激しい中国共産党の体質が見て取れる。
- 中国はしばしば抗日戦争時代の日本軍の残虐ぶりと、紅軍の勇猛果敢さを誇示しているが、当時支那派遣軍や関東軍が戦った主たる相手は国民党軍であり、遁走の術を得意とする中国紅軍との戦闘は百団大戦、平型関の戦い等の例外を除き極めて稀だった。その証拠だが“日本軍との戦闘で戦死した紅軍の指導者”は、八路軍の副参謀長として山西省の山岳部で指揮を執っていた時、日本軍の空爆から逃げ遅れ死亡した②⑧左権(1905~42)しかいないことから明らかだ。もし抗日戦争で死ななければ、解放後に元帥・大将・上将(合計75人)になった可能性のある人物は左権(上将かな?)のみだ。
表中★=事故/病死者、★=戦没、但し戦没と云っても国民党に殺された党員も含む。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/4

延安水滸伝 一覧

注	10大・元帥	10大・大将	上将(全55名)	◎長征に参加
	★建国前に戦死	★建国前に死去	その他将官	赤字＝現代史によく登場する人物
天罡星 三十六員				
001 宋江＝◎毛沢東 (注)	002 盧俊義＝◎朱徳	003 呉用＝◎周恩来	004 公孫勝＝◎王明	
005 関勝＝◎彭徳懐	006 林冲＝◎張聞天	007 秦明＝◎徐向前	008 呼延灼＝★項英	
009 花栄＝◎林彪	010 柴進＝◎★博古	011 李応＝◎徐特立	012 朱全＝◎林伯渠	
013 魯智深＝◎賀龍	014 武松＝◎蕭克	015 董平＝◎葉劍英	016 張清＝◎徐海東	
017 楊志＝★葉挺	018 徐寧＝◎聶榮臻	019 索超＝◎肖勁光	020 戴宗＝◎★羅炳輝	
021 劉唐＝◎任弼時	022 李逵＝◎李維漢	023 史進＝◎廖承志	024 穆弘＝◎陳賡	
025 雷横＝◎何畏	026 李俊＝◎董必武 (注)	027 阮小二＝◎陳伯鈞	028 張横＝◎★左権 (注)	
029 阮小五＝◎何克全	030 張順＝◎王稼祥	031 阮小七＝◎劉少奇	032 楊雄＝◎楊尚昆	
033 石秀＝康生	034 解珍＝◎李富春	035 解宝＝? 廖慶雲	036 燕青＝◎吳亮平	
地煞星 七十二員				
037 朱武＝◎劉伯承	038 黄信＝◎聶鶴亭	039 孫立＝◎辺章五	040 宣贊＝◎程子華	
041 郝思文＝◎周興	042 韓滔＝◎何長工	043 彭玘＝◎★関向応	044 单廷珪＝◎王震	
045 魏定国	046 蕭讓＝◎成仿吾	047 裴宣＝◎★鄧発	048 欧鵬	
049 鄧飛＝◎徐夢秋	050 燕順＝◎蔡乾	051 楊林＝◎★張文彬	052 凌振＝◎楊成武	
053 蔣敬＝◎謝覚哉	054 呂方＝◎傅鐘	055 郭盛＝◎蔡樹藩	056 安道全＝◎吉朋輝	
057 皇甫端＝◎傅連璋	058 王英	059 扈三娘＝丁玲	060 鮑旭	
061 樊瑞	062 孔明＝◎柳紹文	063 孔亮	064 項充	
065 李袞	066 金大堅＝◎馮文彬	067 馬麟＝◎王観瀾	068 童威	
069 童猛	070 孟康	071 侯健	072 陳達	
073 楊春＝◎李克農	074 鄭天寿＝◎甘泗淇	075 陶宗旺	076 宋清＝◎★毛沢民	
077 楽和	078 龔旺	079 丁得孫	080 穆春	
081 曹正	082 宋万	083 杜遷	084 薛永	
085 施恩	086 李忠＝◎王首道	087 周通	088 湯隆	
089 杜興	090 鄒淵	091 鄒潤	092 朱貴＝◎陸定一	
093 朱富	094 蔡福	095 蔡慶	096 李立	
097 李雲	098 焦挺	099 石勇	100 孫新	
101 顧大嫂＝◎蔡暢	102 張青	103 孫二娘＝◎鄧穎超	104 王定六	
105 郁保四	106 白勝	107 時遷	108 段景住	

➤ 当時の日本メディアの取材力には自ずと限度があつて、重要人物が何人が漏れている。長征に出た

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

(つまり遁走した)紅軍を支援するため現地に止まった新四軍の陳毅(後の元帥)、粟裕(後の大将)が漏れている。また50年代に失脚したが、40年代には延安根拠地のリーダーとして絶好調だった高崗と、80年代に鄧小平と共に改革開放を指導した陳雲の名も見えない。陳雲は一時期コミンテルンとの調整でソ連への出張や新疆地域での活動が長かった関係で、人物月旦から漏れたのかもかもしれない。

- 水滸伝には首領・宋江の弟も登場することから、①毛沢東の実弟毛沢民を76位に持って来たらしい。藝が細かいというか、作者は酒でも飲みながら、ゲーム感覚で番付を作ったのかな？
- 白眉は⑬賀龍＝魯智深の見立て。“ヒゲの賀龍”として親しまれている元帥は16歳のとき牛刀2本で、私兵が警護する大地主の屋敷に殴り込みをかけ、武器弾薬を入手して革命軍を組織した逸話が有名。豪傑の風格もあり、旅芸人父娘を苛める悪徳長者・鎮関西を拳骨3発で撲殺した花和尚の再来だ。戦闘のプロの賀龍だが、アタマを使う軍務は苦手だったようで、平和な時代に入り、同じ元帥の陳毅が外相に転出したような器用な真似はできず、思いあぐねた周恩来がスポーツ担当副首相に任命したと云われている。文革で不遇の死を遂げた賀龍だが、もし生前にこの人物月旦を読んでいたならば、水滸伝で人気のトップを争う花和尚・魯智深に準えたことに大満足したことだろう。
- ⑳劉少奇は後に大出世し、ポスト毛沢東の最右翼となったため、毛主席から警戒され文革で失脚することになる。作戦畑が幅を利かせていた紅軍内で、当時の劉少奇の序列はこの程度だろう。因みに、本書第3版で鄧小平は24位、習仲勳(習パパ)は71位でリスト入りしているが、後講釈に違いない。そもそも当時の実力から見て、鄧小平が劉少奇や劉伯承より上位に来るはずがないのである。
- 水滸伝108将の女性は3人のみだから、作者は女性活動家を3名だけ選び、既定の序列に貼り付けたのだろう。59 丁玲は当時人気の閨秀作家だが、101 蔡暢＝㉔李富春夫人、103 鄧穎超＝㉓周恩来夫人はバリバリの革命家。蔡暢は20年代、中共フランス支部の指導者として鄧小平よりも格上だったし、鄧穎超は30年代に上海で地下活動を指揮し、叛徒の粛清も自ら行ったというから只者ではない。水滸伝の3女傑は美女將軍の扈三娘、女ヤクザの顧大嫂、追剥の孫二娘の設定となっている。こんな配役を彼女たちが知ったら、蔡暢、鄧穎超の両女史は大憤慨だったに違いない。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2021年(令和3年)2月19日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/4



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

4/4